

第13期神奈川県生涯学習審議会  
 「地域と学校の連携・協働の推進について」(答申)  
 概要

子どもを取り巻く状況の変化

(人口減少、少子高齢化、家族形態の変化、インターネットの普及等)

子どもの健やかな成長や豊かな学びを支えるために、  
 地域と学校がパートナーとして連携・協働していくことが必要

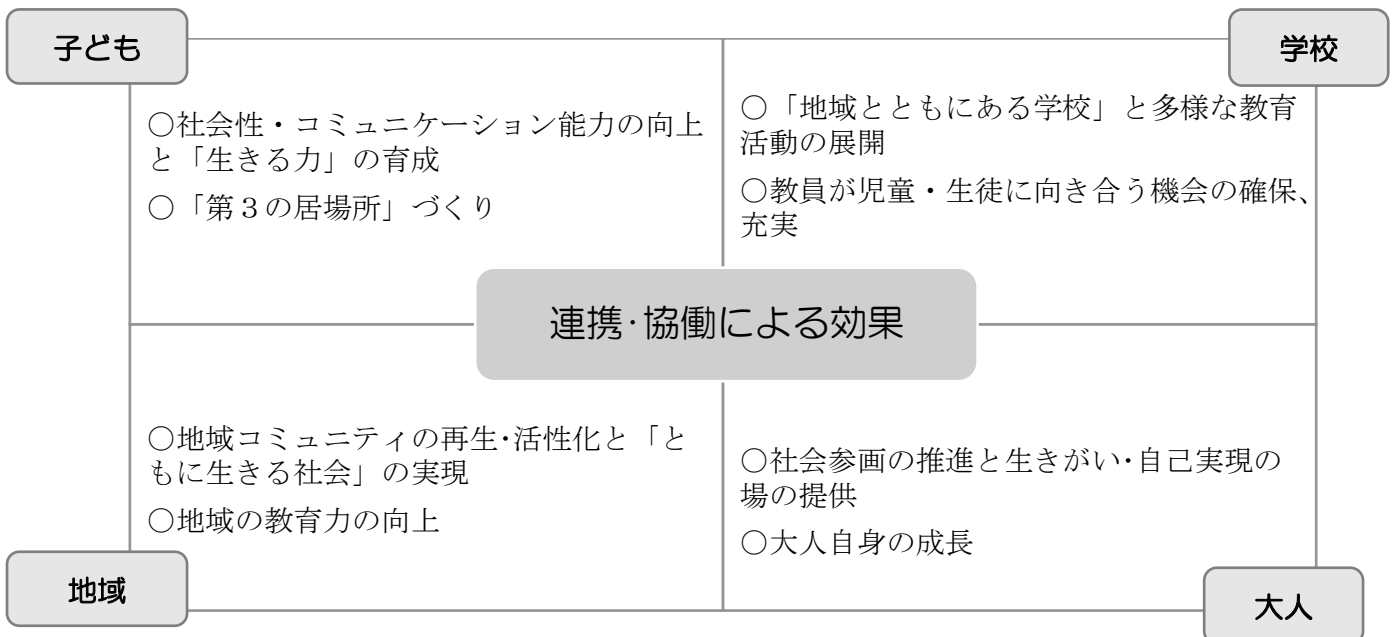
委員による

7つの事例報告(第1章)及び  
 16のレポート(第2章)等による分析、考察

論点の整理(第3章)

事例から抽出される基本的視点

- 自発性
- 地域性
- 協働性
- 柔軟性
- 公益性
- 多様性
- 継続性



## < 今後にむけた、課題と方策 >

### 人材

#### キーパーソンの課題

- コーディネーターやボランティアの人材確保が困難。
- 人材の発掘、育成、継続のためのシステムが構築されていない。

- 公民館がコーディネート機能を発揮、人材のリクルート、発掘
- 活動を通じて、人材を育成

### 方策

### 体制

#### 活動体制の課題

- 地域の実情に応じた、既存の事業や取組が十分に生かされていない。
- 社会教育施設（特に公民館）がもつ機能、強みが十分に生かされていない。
- 地域の様々な機関・団体等との連携が不十分。

- 連携・協働を推進する既存の仕組の充実、あるいは「地域学校協働本部」の構築など、地域の実情に応じた推進体制を行政が構築する。
- 地域の拠点である公民館が持つ資源の積極的活用に配慮。
- 民間組織も含め、さまざまな機関が地域の構成員としてゆるやかに連携（活動場所の提供など）。

### 方策

### 意識

#### コンセンサスの課題

- 学校、地域のすべての人々が、自らの意思で、ともに地域を創っていくという共通認識が希薄。
- 地域が学校を支援するという一方向になりがち。
- 地域、学校が対等でない活動は、一方に“やらされ感”が残り活動継続が困難。

- 広報活動の強化
- 効果を実感できる実践による理解の促進
- 「地域とともにある学校」へ意識転換
- 地域、学校にとって“Win-Win”となる活動を行い、関わる人たちが、負担感なく、自ら楽しく動ける活動を展開

### 方策

## 提 言（第4章）

### 1 連携・協働を進めていく上で、大切な視点（総論）

- 学校教育、社会教育にはそれぞれの「よさ」がある
- 地域社会の中にある教育機能に期待し、「学校の外で行われている組織的な教育活動の場に子どもたちを送り出す」という形の連携のあり方もある
- 地域と学校とが「Win-Win の関係」を築く支援体制の構築が重要

### 2 活動に関わる皆さんへ

#### （1）地域の皆さんへ

「できることから子どもたちの育ちを支えるボランティアを始める」という機運を地域の中に作り出していきたい

#### （2）学校関係者の皆さんへ

学校教育は自前主義に陥らず、地域にある社会教育施設や住民と連携・協働するあり方について一層理解いただきたい

### 3 行政が果たすべき役割

- コーディネーターの研修や交流機会の充実を図ること
- 「学校との連携・協働」を担う住民・団体等が必要な財的、人的、物的、情報発信等の支援を得られるよう、行政の担当部署、担当者を明確にすること